

「サウルとヨナタンの違い」

2025.11.26

聖書に学ぶ 28

I サムエル記 14:1～23

サウルの息子ヨナタンはサウルとは違い、信仰の勇者でした。

浜辺の砂のようなペリシテ軍に勝利できた要因は、ヨナタンと彼と運命を共にする忠実な部下の存在です。彼らの信仰が、主なる神の御手を動かしました。神は信仰をもって従う者に、願いや思いを起こさせられ、その信仰による祈りを聞いてくださいます。

今日の学びの要点

「人数が少ないことは、主にとって問題ではない」というヨナタンの信仰は、神のあまりにも偉大な御力は、人間の力の大小など、まったく関係ないという確信です。また、信じていても、実行に移す決断は簡単ではありませんが、彼は非力な自分でも、主が味方なら勝利しない訳はないと、その思いを行動に表しています。

I、ヨナタンの信仰

(Iサムエル記 12:13～15)

1、イスラエルとペリシテが戦うことになりましたが、その切っ掛けは、ヨナタンが何をしたことでしたか。(Iサムエル記 13:3～4)

2、イスラエルの劣勢の状況の中で、ヨナタンはどうしたのでしょうか。

①ヨナタンはどこへ行こうと言いましたか。(Iサムエル記 14:1)

②ヨナタンは神様の力をどのように思っていましたか。(Iサムエル記 14:6)

③このヨナタンの信仰の言葉に、道具持ちの若者は何と言いましたか。

(Iサムエル記 14:6)

・ヨナタンの神への信仰に対して、生死を共にする事もいとわれないほど信頼していた。

3、サムエルに見放された、父のサウル王はどうしたのでしょうか。

(Iサムエル記 14:3)

Ⅱ、ヨナタンの決断 (Ⅰサムエル記 14:8～23)

1、ヨナタンは神様のみこころを知り、みこころに従う事により、勝利できると考えました。どのような方法を考えましたか。

① 隠れている大岩の間から、敵に自分たちの姿を敵に見せる。(Ⅰサムエル記 14:8)

② 敵が「じっとしている」と言ったら→ (v9)

敵が「上って来い」と言ったら→ (v10)

2、神様のみこころを確信したヨナタンと道具持ちは、敵を討ち取りました。これは、どのような結果を生み出しましたか。

(Ⅰサムエル記 14:15～23)

①ペリシテ軍：異常なほどの**恐怖** (Ⅰサムエル記 14:15)

↓

大混乱 (v16) ————— 同士討ち (v20)

②イスラエル軍：ヘブル人…ペリシテ側からイスラエル側についた (v21)

隠れていたイスラエル人…戦いに加わった (v23)

③このとき、神様がしてくださった事は何でしょうか。

- ・信仰をもって従う者：願い、大胆な思いを起こさせる
- ・ペリシテ軍：異常な恐れ→ 恐怖→ 混乱 (恐れは伝搬する=広範囲に広がる)
- ・イスラエル軍：恐れを取り除き(ヘブル13:6)→ 大胆な心を与え→ 民を1つにされる

3、サウルは祭司を頼み、神の箱にも依り頼んでいたが、従うというのではなく、おまじない的な信仰である。(Ⅰサムエル記 14:18～20)